

美唄市工業用水道事業経営戦略概要版

1.経営戦略策定の趣旨

本市の工業用水道事業は、昭和 56 年から供用開始しているが、事業開始当初から料金収入だけでは経営が成り立っていない状況であり、工業用水道事業を取り巻く環境は、今後もさらに厳しさを増していくことが予想されることから、経営状況及び財政計画を明確にしていくために、中長期的な基本計画である「美唄市工業用水道事業経営戦略」を策定する。

2.経営分析

配水能力に対し契約率が 28.2%、施設利用率が 20.8%で設備の 8 割が稼働しておらず、過剰設備の状態であり、企業誘致が進んでいない。

料金回収率は 7.1%と維持管理費すら賄えておらず、現金不足分を一般会計からの繰入金で経営している。

稼働開始後 40 年以上経ち、施設の更新時期を迎えており、事業の統廃合を含め検討しなければならない。

3. 水需要の予測

令和 8 年 1 月現在は 11 社 11 事業所で契約水量 282 m³となっているが、令和 8 年 4 月において減水申込事業者 1 社△15 m³のほか、稼働開始予定者 1 社から令和 8 年度 60 m³、令和 9 年度 120 m³、令和 10 年度 240 m³の事業相談を受けているため、水需要の増を見込む。

4. 経営の基本方針

稼働開始から 40 年以上経過し、施設の老朽化は著しく、更新した場合、企業誘致による料金収入が増加しても、費用に見合う収入を得ることは難しい。

市として経済波及効果を考慮した投資の判断が必要なため、現状の施設の延命を図りながら、最適な方向性を検討する必要がある。

5. 投資・財政計画（収支計画）

美唄ダムは北海道が管理運営を行っており、工業用水道事業は事業費の 9.2%の負担金を払う事業となっている。毎年事業費 81,500 千円（負担金約 7,500 千円）を計上している。

また、令和 6 年度に開通した道道美唄富良野線には一部未整備区間があり、令和 8 年度から令和 10 年度にかけ道路改良工事が予定されている。現在埋設されている導水管が工事に支障をきたすため、移設補償工事を実施する。

浄水場の計測設備について、水道事業と共用しており、法定耐用年数を大幅に超えて使用していることから、水道事業のアセットマネジメント計画に基づく更新となる。

6. 経営戦略の事後検証・改定等に関する事項

経営戦略の進捗状況について毎年度検証を行い、PDCA サイクルにより継続的な改善を図るとともに、社会経済情勢の変化等を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行う。

